

老上中学校
学校だより
H28(2016).8.31

考動する老中

校訓
「自主・創造」

文責 辻本 長一

夏季総体、吹奏楽コンクールが終わる

～ ソフトボール部女子、水泳個人、柔道個人 近畿大会に出場 ～

7月、8月の夏季休業期間中に、中学校夏季総合体育大会が開催されました。また、吹奏楽部は滋賀県吹奏楽コンクールに参加しました。



女子ソフトボール部

女子ソフトボール、柔道個人(3年住友夢唯さん)、水泳個人(1年小島明日香さん)の3種目において近畿大会出場を果たしました。県大会で優秀な成績をおさめ近畿大会に出場することは、たゆまぬ努力、高い技術力や強い精神力などが求められます。今一度、出場した皆さんの輝かしい成績と栄光を誉めたたえたいと思います。これからも、自信と誇りをもって、さらなる目標の達成に向けて突き進んでいってください。

また、どの部活、競技においても、全力でのプレーや演奏をする皆さんの姿に感銘しました。プレーをする皆さんは、勝利をめ

ざして持てる力を出し切り自分の可能性を最大に発揮しようと、一人ひとりが輝いていました。人が思いっきり取り組んでいる姿は実にすばらしく尊いなど改めて感じました。また、団体競技や個人競技によらず、白熱するプレーへの声援も大きく、大きな支えになりました。

1年生と2年生の皆さんは、いよいよこれから新チームとなります。新チームでの1年間は、意外と短いものです。まずは自分で、あるいは自分たち自身で目標をさだめることが肝心です。そして、その気持ちを持ち続ければ、目標は達成できると確信しています。



男子バスケットボール部

2学期の始業にあたって

～ 家庭学習の充実、学校行事に全力投球を ～

2学期の始業式で、私から次のような話をしました。(以下、概略)

- 夏季総体等において、必死に頑張る姿、応援し励まし合いながら頑張る姿に感動した。
- オリンピック陸上男子400mリレーにおいて、100m10秒を切る選手がいないなか、銀メダルの獲得に感動した。ち密な戦略と勝負強さが勝利を生んだのではないか。
- 相模原市の障がい者施設での殺傷事件や、埼玉県での少年殺害事件はたいへん痛ましく怒りを感じるし、人ごとではない。自分のこととしてみんなで考えていきたい。
- 2学期に皆さんに2つのことを期待したい。
 1. 自分で考えて「考動」することの一つとして、家庭学習を充実させる。
 2. 老中祭などの行事をとおして、一人ひとりの良さを発揮し、学級で力を合わせて学級30数名の力を30でなく倍の60にも3倍の90にもしてほしい。

家庭学習のことについてもう少しふれてみます。そもそも何をすればよいのかわからない人もいるでしょう。まずは、その日に学習した教科書やノートを開けること、そしてキーワードをもう一度書いてみる、問題を解いてみる、次に習うところを読んでみる、そうしたことから始めましょう。繰り返し練習問題をしてもいいし、インターネットなどでより詳しく調べてみるのもよいでしょう。授業と関連付けて学習してみましよう。復習や予習をやることで授業もよくわかるようになります。もちろん、自分でやることを計画して、問題集などに継続して取り組むのもすばらしいことです。

そして、「心のチャイム」のことを夏休み前にお話ししましたが、夏休み中だけでなく、これからもずっと大切なことです。家庭学習でも、「心のチャイム」を自分で鳴らして、努力しましょう。それは、学力をつけるだけでなく、自分を強くすることにもつながるに違いありません。

読書は人生を豊かにしてくれます

私が少年時代を振り返って一番後悔していること、それは読書をしなかったことです。

でも、悔やんでも時間は戻ってきませんし、今からでもと思い、毎日ほんの少しの時間ですが、大人になってからいろいろな本を読んでいます。

さて、皆さんは、この夏休みに本を読みましたか。

私が最近読んだ本のなかに、お笑い芸人で芥川賞作家の又吉直樹さんが書いた「夜を乗り越える」という本があります。この本は、又吉直樹さんが少年期からこれまで読んできた数々の小説を通して「なぜ本を読むのか」「文学の何がおもしろいのか」「人間とは何か」などについて、考えをまとめたものです。数々の本との出会いが紹介されており、私が読んだ本も多く含まれていて、又吉さんと同じようにワクワクしながら同じ本を読み進めたことを思い出したり、あるいは、私とは結構違う受け止め方をしているのだとか、私には考えも及ばないほど深く読んでいるのだと感じたりしました。



タブレットを活用した
ビブリオバトル（2年国語）

その本のなかで又吉さんは、本を読むこと理由の一つとして、「答えのないことを学べる」と述べています。「社会に出たらもうほとんど答えなんかありません。だから争いがあるのだし、物事は難解なことばかりです。そんな答えのないことにぶつかった時、それでも止まらず進んでいかなければならない時、どうするのか。生きていくことは面倒くさい。答えがありません。本はそのことを教えてくれます。答えがないことを学ぶことができます。その時の主人公の迷いや葛藤、その末の判断を知ることができます。……」と、このように述べています。

実は皆さんが受けている授業についても、同じようなことが言われています。皆さんがどのような内容を勉強するかは、文部科学省が定める学習指導要領で決められていますが、それを新しくする作業がいま行われています。新しい学習指導要領では、「何を学ぶか」という学習内容に加えて「いかに学ぶか」という学び方まで示されます。複雑になってきている社会をより良く生きていくためには、答えが一つでないことについてより良く解決していかなければなりません。新しい学習指導要領は、こうした未来を見据えたものだと思います。

また昔、私が人として教員として深く考えさせられた本もあります。灰谷健次郎さんの「兎の眼」をこの夏にもう一度読んでみました。自分の考えのもとになったことも多く、また、昔読んだ頃のこととも思い出してなつかしくもありました。

本には、ドラえもん「どこでもドア」を現実のものとしてくれる、そんな魅力もあります。100年以上も昔に書かれた本をとおして、自分がこの世にいなかった頃の生活を味わうこともできますし、外国で書かれた本を読んで、いろいろな国の生活の様子を知ったり、外国の人々の考え方にふれたりすることもできます。まさしく、本というのは私たちに夢をもたらせてくれるものです。

一度にたくさん読もうと思っても、なかなか読めませんが、1日10分の読書でも1か月に数冊の本と出会うことができます。かりに1か月に1冊でも1年に12冊、10年たてば120冊にもなります。この夏休みの期間中、図書室に400冊近くの新刊本を入荷しました。図書室には多くの出会いと発見があります。開館は明日からです。



図書室の様子（1学期、昼休み）

NIE(新聞を活用する教育)の実践校になりました

すでに新聞報道でもご存知のことと思いますが、今年度、老上中学校がNIE（新聞を活用する教育）の実践校になりました。授業において新聞を活用し、社会とのつながりを意識しながら、表現力を高める取組を進めていきたいと考えています。

この取組を進めるために、9月1日から毎日、数社の新聞を提供していただきますので、生徒の皆さんは、昼休みには図書室で自由に新聞を読んでください。